



**選挙関心高める
新聞活用術学ぶ
那覇でワークショップ**

明るい選挙推進協会（東京都）主催の「地域コミュニケーションフォーラム」が6、7の両日、那覇市のサザンプラザ海邦で開かれ、九州・沖縄各県から45人が参加したII写真。市民性に関する講義やワークショップが行われ、選挙への関心を高める取り組みが話された。

熊本日日新聞社の越地真一郎NIE専門委員は「新

聞ヨム、社会ワカル、投票率アガル」『しんぶん井戸端会議』の取り組み」と題した講座を実施。新聞を読む層の投票率の高さを示した調査結果を示しながら「新聞を通して社会に関心を持つことで、自分の考えが生まれ、投票行動につながる」と解説した。その後参加者らはグループで協力し、記事に見出しを付けるワークショップを行った。

越地委員は「社会への関心を育て、自分たちが国を決めるといふ土壌づくりが大切だ」と激励した。

鹿児島県から参加した園田邦子さん(60)は「新聞にはさまざまな力があると実感した。今後の課題改善につなげていきたい」と意気込んだ。主催した同協会の鈴木秀毅さん(42)は「新聞を持ち寄ればできるので、地元でも活用してほしい」と話した。